

施策No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	生活環境課	主管課長名	仁平 博章
5-7	施策名	廃棄物の抑制と適切な処理	関係課	なし		

1. 施策の目的と成果把握

施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
				見込値	実績値	見込値	実績値	見込値
・市民 ・市内で発生した廃棄物(ごみ・し尿)	①桜川市人口	人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197
			実績値	41,278	40,483			
	②市内のごみ総排出量(事業所分を除く)	t	見込値	10,760	10,755	10,750	10,745	10,740
			実績値	9,395	9,446			
	③し尿処理量	t	見込値	15,050	15,000	14,950	14,900	14,850
			実績値	14,628	15,610			
施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
ごみの発生が抑制され、適正な処理が行われている。	①1人1日当たりのごみ排出量	g	目標値	680	680	680	680	680
			実績値	626	639			
	②資源物比率(資源ごみ÷ごみ総排出量)	%	目標値	9.2	9.4	9.6	9.8	10.0
			実績値	9.4	8.9			
	③可燃ごみの搬入量	t	目標値	8,780	8,760	8,740	8,720	8,700
			実績値	8,229	8,292			
	④不燃ごみの搬入量	t	目標値	470	440	410	380	350
			実績値	284	309			
	⑤資源ごみの収集量	t	目標値	910	920	930	940	950
			実績値	882	845			
成果指標設定の考え方	○発生が抑制されるは、①「市民1人当たりのごみ排出量」が減れば、ゴミの減量化につながると考えた。 ○適正に処理がされるについては、②資源物比率、③④可燃・不燃ごみの搬入量、⑤資源ごみの収集量で把握する。							
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の桜川市人口は毎年10月1日現在の常住人口 ○対象の「市内のごみ総排出量」は、事業所から排出されたもの(事業系一般廃棄物)は除いている。 ○ごみの発生を抑制していく意図の経年変化を見るために、成果指標を1人1日当たりのごみの排出量(市内のごみ総排出量/常住人口)とした。 ○適正処理については、資源物比率を見ることで把握する。 ○可燃、不燃ごみの搬入量は環境センターへの搬入量							

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)		
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1日当たりのごみ排出量は、H29年度が626g、H30年度は639gで、前年度と比べ13g増加している。</li> <li>・可燃ごみ搬入量は、H29年度が8,229t、H30年度は8,292tで、前年度と比べ63t増加している。</li> <li>・不燃ごみ搬入量は、H29年度が284t、H30年度は309tで、前年度と比べ25t増加し、ごみ減量化啓発事業の効果が得られない結果となった。</li> <li>・資源ごみの収集量は、平成29年度882tから、平成30年度845tと、37t減少した。</li> <li>・資源物比率は、H29年度は9.4%、H30年度は8.9%であった。分別を促す周知看板の作成・設置等の啓発を行ってはいるが、一般のごみと資源ごみの分別が徹底されていないことが、資源物比率の減少した要因と思われる。</li> </ul>	
2) 成果目標の達成状況		
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1日当たりのごみ排出量は、H30年度の目標値680gに対し、639gで41g目標値を上回った。</li> <li>・可燃ごみ搬入量は、H30年度の目標値8,760tに対し、8,292tで468t目標値を上回った。</li> <li>・不燃ごみ搬入量は、H30年度の目標値440tに対し、309tで131t目標値を上回った。</li> <li>・資源ごみの収集量は、H30年度の目標値920tに対し、845tで75t目標値を下回った。</li> <li>・資源物比率(資源ごみ÷ごみ総排出量)は、H30年度の目標値9.4%に対し8.9%で、0.5%目標値を下回った。</li> <li>・成果目標の達成状況については、資源物比率で目標値を下回ったが、3つの項目で目標値を上回ったことから、「一部の成果指標で目標値を上回った」と評価した。</li> </ul>	

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対する総括	今後の課題・方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度は、「資源ごみ分別収集事業」、「ごみ収集及び清掃業務委託事業」、「ごみ減量化啓発事業」を中心に事業を実施した。</li> <li>・資源ごみ分別収集事業においては、毎月各行政区から排出された資源ごみを売却し、行政区に報奨金として実績に応じて還元した。</li> <li>・ごみ収集及び清掃業務委託事業においては、シルバー人材センターに委託をし、定期的に市内の道路及びその周辺に存在するごみの収集や分別作業、不法投棄された可燃・不燃ごみの回収をした。</li> <li>・ごみ減量化啓発事業においては、広報やイベント等を通じて積極的に啓発を行い、ゴミの減量化に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業廃棄物や一般廃棄物の不法投棄問題は、適正な処理の推進の妨げとなることから、これらの問題に的確に対処していくことが求められる。</li> <li>・ごみ減量化を図るため、広報やイベント等を通じて積極的に啓発を行い、粗大ごみなどから出るリサイクル製品を細かに分別し、できるだけ付加価値のある物を搬出し、収入増に結び付ける。</li> </ul>